

東京外国語大学国際日本研究センター
比較日本文化部門＋国際連携推進部門共催
ミニシンポジウム

「アジア映画における 身体、イメージ、〈壁〉」

—『座頭市物語』『中華女児』『緋牡丹博徒 お竜参上』—

パネリスト: 菅孝行 氏 (評論家、劇作家、梅光学院大学特任教授)

橋本雄一 氏 (東京外国語大学)

司 会: 友常勉 氏 (東京外国語大学)

日 時: 2015年1月29日(木) 18:00-20:30

会 場: 東京外国語大学 研究講義棟227室

〈一般公開 参加費無料〉

仕込み杖で敵陣を切りぬける市(『座頭市物語』1962年)。
日本軍と戦う中国東北抗日聯軍のヒロインたち(『中華女児』1949年)。そして『緋牡丹博徒 お竜参上』(1970年)の
凌雲閣の血闘の耽美。そこでは異形の身体とイメージが動
きだし、世界に遍在する〈壁〉が聳えはじめる。すべての〈ア
ジア映画〉は実験的なのだった。その魅力と可能性を三作
品やその周辺を通して探る!

お問い合わせ

東京外国語大学 国際日本研究センター

電話: 042-330-5794 メール: info-icjs@tufs.ac.jp

